

(3) California State University, Northridge (カリフォルニア州立大学ノースリッジ校)



1) California State University, Northridge の概要

・ 設立年， 学生人数， 組織について

California State University, Northridge (以下, CSUN) は、カリフォルニア州ロサンゼルス郡ノースリッジ市に本部を置く州立大学である。1958年に設立された。約36,000名の学生、4,000名の教職員を抱え、64の分野で学士号、52の分野で修士号、そして教育学部で博士号を供給する。学部は次の9つで構成されている。芸術学、経営・経済学、教育学、工学・情報科学、人間発達学、人文科学、科学・数学、社会学、拡張プログラムがあげられ、芸術学部には音楽学科、映画学科、テレビ学科、社会学部に心理学科などが存在する。このうち全米ではギャローデット大学に続いてユニークな分野としても知られている、ろう研究(Deaf Studies)という学科が存在する。大学院では、教育学、人類学、コミュニケーション学、言語学、生物学、芸術、マスメディア等33研究科で構成されている。

・ 障害学生と支援体制について

CSUNは、米国において長年、障害学生を積極的に受け入れ、入学前後の様々な面における支援体制も整っており、障害者向けの高等教育機関として聴覚障害学生対象のギャローデット大学と並び高く評価されている。特に、様々な学問領域で教育や研究を行う統合大学では、全米一の聴覚障害学生の在籍人数であると言われている。聴覚障害学生を含む全障害学生は約1,000人おり、その半数近くを発達障害が占めている。表4に、CSUNに在籍している障害別の学生人数を示す(但し、障害別は日本の障害分類にならって再整理している)。

CSUNにおける障害学生支援の部局は、聴覚障害についてはNational Center on Deafness(以下、NCOD:聴覚障害学生支援センター)が、それ以外の障害はDisability Resources and Educational Services(以下、DRES:障害学生のためのリソース及び教育サービスのセンター)が担っている。高大連携では、聴覚障害の場合NCODにあるPEPNet-West(Postsecondary Education Programs Network-West)が担当し、それ以外の障害についてはDRESとStudent Outreach and Recruitment Servicesが連携して担当している。後者の方は、近年の予算削減により障害のある高校生対象の移行支援プログラムの実施が困難となり、CSUNが全学的に企画する高校生ツアーに参加させたり、DRES主催の説明会(OpenHouse)に来てもらってカウンセリングや情報提供等を行ったり高校に資料を送るなどの取組が変わったという。

今回の視察では、NCODとPEPNet-Westにおける聴覚障害学生支援と高大連携を中心に行った。

表 4 CSUN における障害別の学生人数⁴

種 類	人数 (注)	内 訳
発達障害	480 名	学習障害 282 名, ADHD173 名, 広汎性発達障害 25 名
聴覚障害	250 名	ろう, 難聴の両方含む
精神障害	123 名	気分障害 64 名, 不安障害 39 名, 統合失調症や統合失調感情障害 12 名, 睡眠障害 4 名, チック障害 4 名, 摂食障害 1 名, 認知症 1 名, 解離性同一性障害 1 名など
肢体不自由	115 名	慢性関節リウマチや骨関節軟部組織疾患 43 名, 脊髄損傷やその他の脊髄疾患 14 名, 手根管症候群 12 名, 脳性まひ 8 名, 筋ジストロフィー3 名, その他の運動障害 27 名など
視覚障害	31 名	盲 5 名, 弱視 16 名, その他 10 名 (弱視ろう 1 名のみ)
病 弱	19 名	糖尿病 6 名, 自己免疫疾患 9 名, クロウン病 3 名, 呼吸器系疾患 1 名など

注) 聴覚障害学生の数に関するデータは NCOD, それ以外の障害学生の数データは DRES から入手した。

2) National Center on Deafness の概要

1962 年に設立。CSUN は、アメリカ合衆国で最初に聴覚障害学生のメインストリームプログラムが始められたことでも有名な大学であり、NCOD は、聴覚障害学生に対し様々な場面で必要なサポートサービスやコミュニケーションアクセスを供給している。これまで 2,500 名以上の聴覚障害学生の教育的ニーズに応じて必要なサービスを提供しており、現在、ろう教育免許コース、ろう研究学科、NCOD、PEPNET-West に在籍する学生、教職員を含めて約 1,000 名もの手話使用者（そのうち約 500 名がアメリカ手話通訳を学んでいる）がおり、“にぎやかな”教育コミュニティが形成されている。スタッフは、センター長 1 名、副センター長 1 名、支援コーディネーター責任者 1 名、コーディネーター 4 名、修学に関するアドバイザー 2 名、他スタッフ 4 名あわせて 13 名いる。また、NCOD は、ろう関係の書籍、学位論文、専門書等を非常に多く蔵書しており、世界を代表するろう関係のリソースセンターの 1 つとしても有名である。さらに後述するように、NCOD は、PEPNet-West 本部でもあり、高校や大学等に対

⁴ CSUN の特別支援教育学科（教育学部内）では障害領域に応じて 4 つの教員養成プログラムが用意されているが、この障害領域の分類は次のようになっている。①ろう・難聴 (Deaf and Hard of Hearing), ②誕生から幼稚園入園までの障害児 (程度・重複は問わない) 及び家庭 (Early Children Special Education), ③軽度・中等度障害 (Mild/moderate Disabilities) K-12 で特に学習上の困難を持つ障害児 (知的, 健康面, 情緒面の障害が対象になる), ④中等度・重度の障害 (Moderate/Severe Disabilities) K-12 で重度の自閉症, 重複障害, 中等度から重度までの知的障害, 盲ろう, 情緒障害の子どもが対象になる。なお、視覚障害に関する教員養成プログラムはない。

するアウトリーチ（移行支援も含む）やトレーニングサービスを実施している。

聴覚障害学生に焦点を当てた様々なプログラムについては、ろう研究学科内の手話通訳養成コース、手話文学コース、ろう教育コース、ろうコミュニティーサービスコース、ろう文化コース、特別支援教育学科ろう教育免許コース、NCOD、PEPNet-West、そしてコミュニケーション障害科学科(言語聴覚士、聴力検査技師養成コースなどを含む)が挙げられる。

聴覚障害学生に対するサポートサービスについては、手話通訳（毎年 130 名ほど）、パソコン通訳、ノートテイク、チュータリング、ろうの教員による英語、数学など直接的コミュニケーションクラスの開設、入学オリエンテーションの実施、修学上の相談（講義など履修に関するアドバイスなど）、キャリア支援、就職支援など多岐にわたるサービスを提供している。

他に、学生自治会の中に Deaf CSUNians と呼ばれる聴覚障害学生団体があり、文化、政治、社会的な側面で聴覚障害学生の主体的成長及び権利意識の向上につながる活動を実施している。

3) PEPNet-West の概要

NCOD 内にある PEPNet-West が聴覚障害高校生及び高校に対してどのような移行支援を行っているのかについて、NCOD センター長兼 PEPNET-West 西支部監事の Roz Rosen 氏（元ギャロデット大学副学長）と、PEPNet-West 西部のディレクターの Cathy McLeod 氏（図 6）にインタビューした。

・ PEPNet について

高校に対する移行支援は、NCOD 内にある PEPNet の西支部である PEPNet-West が主に担っている。

PEPNet (<http://www.pepnet.org/default.asp>) とは、アメリカ合衆国の障害者教育法 (Individuals with Disabilities Education Act) に基づく障害児・者の教育を受ける権利の保障と、ADA (Americans with Disabilities Act) による高等教育機関を含む公的施設における障害者差別禁止の法的措置により、高等教育機関における聴覚障害学生の機会均等を保障するために作られた全米聴覚障害学生高等教育支援ネットワークである。1996 年に米国教育省と特殊教育局の財政的援助を受けてスタートし、先進的な取組を行ってきた大学で長年培われてきた聴覚障害学生支援のノウハウを全米の各大学・コミュニティカレッジに提供することで、アメリカ全体における聴覚障害学生支援の水準を高め、充実させるように取り組んでいる。アメリカ合衆国の西部、中西部、北東部、南部の 4 地区に置かれた地域センター（図 7）が中心となって、それぞれ地区内の大学群との下位ネットワークを構成している。いずれの地域センターも、米国教育省の募集に応じて応募してきた大学・機関の中から審査を経て決定されているもので、聴覚障害学生支援に先進的な大学・機関内に設置されており、CSUN も当初から西部の地域センターとして担い続けている。前述の財政的援助では、5 年契約とし、全体で約 400 万ドル（約 4 億 8000 万円）の補助金が支給され、各地域センターの運営やネットワークの活動にかかる経費として各地域センターに年間約 100 万ドル（約 1 億 2000 万円）配分される。

これまで第一期（1996-2001）、第二期（2001-2006）の 5 年契約を満了し、現在は 2006



図 6 Roz 氏, Cathy 氏と

年 10 月から第三期の 5 年契約でプロジェクトを進行中である。同プロジェクトで特に進めていることは、高校からより高度な教育プログラム（大学、コミュニティ・カレッジ、その他のトレーニングプログラム）への移行支援である。その背景については、PEPNet が年 2 回発行しているニュースレター 2008 年春号で、次の調査結果によって移行支援が重視されるようになったと述べられている。①Schroedel & Watson(1991)の調査で、高校 3 年の聴覚障害生徒や両親が将来に向けて重大な決定をするにあたり、彼らの 5%しかキャリア教育のクラスを受けていないこと。②Bowe(2003)の調査でも、コミュニティ・カレッジまたは 4 年制大学に入学する聴覚障害学生の 3 分の 1 だけが卒業認定の対象になること。③他の調査でも、大学に入学した聴覚障害学生のうち、中退または大学の卒業認定を受けられなかった者が驚くべきことに 70%もいること。以上の点が明らかになり、入学後の支援の発展だけでなく入学前支援、移行支援も重要視していくようになったという。

また、第一期と第二期では地域センターごとに活動やサービスの役割が別々に担われていたが、第三期からは、全ての地域センターが PEPNet として共通のアイデンティティを持ち、活動やサービスの同等性と共同性を図るために、これまでの地域センターの名称が次のように改称された（表 5）。

なお、こうしたネットワークは世界的に類を見ないが、唯一日本では、PEPNet をモデルにした「PEPNet-Japan」が 2005 年に設立され、現在は、文部科学省特別教育研究経費による拠点形成プロジェクト（筑波技術大学）の活動の一部として、先進的な取組をしている大学・機関（宮城教育大学も含む）との連携のもと、聴覚障害学生支援に関する研究、養成研修、支援教材の開発、全国大会等を実施している。

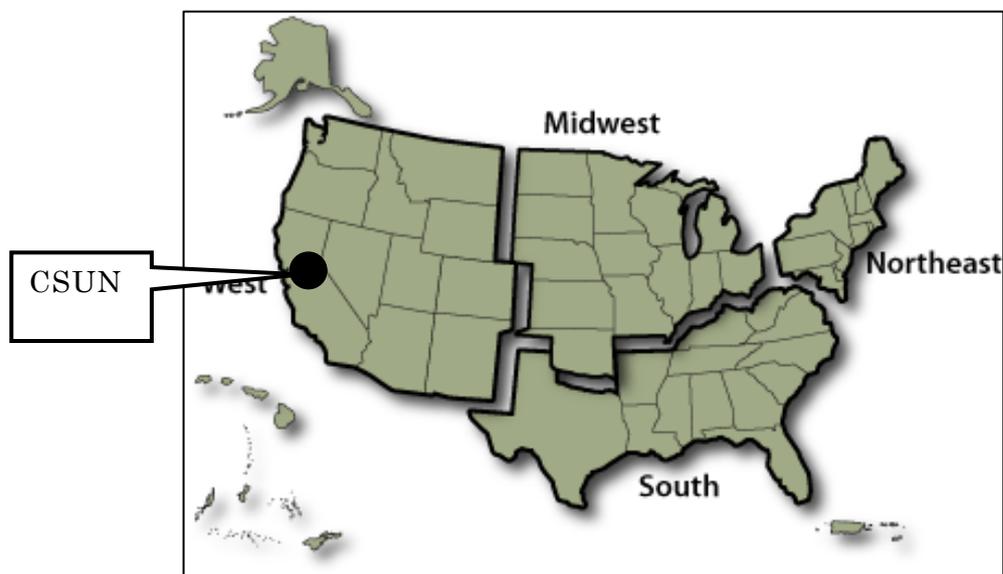


図 7 PEPNet 地域センター (<http://www.pepnet.org/default.asp>)

表5 PEPNet 地域センターの名称及び設置されている大学名

設置されている大学名	以前の名称 (第一期, 第二期)	現在の名称 (第三期)
Saint Paul College (セントポール大学)	MCPO (Midwest Center for Postsecondary Outreach)	PEPNet-Midwest
Rochester Institute of Technology (ロチェスター工科大学)	NETAC (Northeast Technical Assistance Center)	PEPNet-Northeast
University of Tennessee, Knoxville (テネシー大学ノックスビル校)	PEC (Postsecondary Education Consortium)	PEPNet-South
California State University, Northridge (カリフォルニア州立ノースリッジ校)	WROCC (Western Region Outreach Center & Consortia)	PEPNet-West

・ PEPNet-West における移行支援の取組

PEPNet-West は、アメリカ全域の半分に相当する西部を支援対象範囲にしていたため、高校対象の移行支援を実施するにあたって、他の地域センターと比べて遠方の高校や大学へ支援するための経費が非常にかかっていた。しかしながら後述するように、現在は、Web コンテンツやビデオ電話などを有効活用した移行支援を行っている。

高校から大学への移行支援については、以下のような方略をとっている。

第一に、いくつかの学区を担当する IEP コーディネーターが、学区内の高校に聴覚障害学生がいるか、どのようなニーズを持っているのかを把握し、その結果を PEPNet-West に伝えて支援を依頼する。高校から難聴学生がいるので協力してほしいと依頼してくることは皆無に近い。IEP コーディネーター自ら赴いて把握しなければならない。PEPNet-West は、IEP コーディネーターからの依頼内容に応じて高校を訪問して説明したり話し合う。グアムまで飛んで、アメリカ領サモア諸島、サイパン島を含む北マリアナ諸島から来た聴覚障害生徒やその家族に情報提供や助言をすることもある。また、メールでの対応でも可能な場合は、必要な電子資料（ニュースレター、パンフレット等）を添付して情報提供する。しかしながら聴覚障害や育児に関する親の意識の低さが、移行支援サービスを妨げてしまうことにつながるという問題が慢性化しており、十分にサポートできているとは言い難いとのことである。例えば、聴覚障害児にとってわかりやすいコミュニケーション方法や係わり方について十分に配慮されていないこと、コミュニケーションアクセスや教育サービスが整っている聾学校より、教育サービスが不十分ではなくてもよいから家の近くにある学校に通わせたいことなど、他の州でも同じ問題状況が続いている。できればお互いに手話を使ってコミュニケーションできる場所（聾学校）に集まって支援していくのが理想的である。しかし現在、高校にメインストリームして分散している状況では、一人ひとりの手元に「大学とは何か」などの情報が行き届き、かつ助言やカウンセリングを行うことができるような体制が求められる。したがって、PEPNet-West

にとっては、個々の高校の状況を把握できる IEP コーディネーターとの連携は不可欠であるといえる。IEP コーディネーターの実態把握力や教育機関とのコーディネート能力が、聴覚障害高校生の移行支援の鍵を握っているといっても過言ではないだろう。

第二に、NCOD や PEPNet-West が、西部の各州で開かれる様々な集まり（校長会議，学校教育関係のカンファレンス，ろう者コミュニティのフェスティバルなど）に積極的に参加し，PEPNet-West についてカンファレンスや説明会を開いたりパンフレット等を配布するなどの啓蒙活動を展開している。相談ブースを設置して聴覚障害高校生，親や教員等のニーズ評価やカウンセリングを行うこともある。NCOD センター長の Roz Rosen 氏は、「太鼓を叩いたときの振動が響き広がるように」高校だけでなく教育関係，ろうコミュニティの集まりにも足を運んで積極的に啓蒙していくことの大切さを主張していた。

第三に、近年、全米のろうコミュニティでは、Video Phone（以下、VP：テレビ電話）や Video Relay Services（以下、

VRS），Web 技術を活用した視覚的コミュニケーション・メディアが浸透している（図 9）。VP とは手話話者がお互いの映像を見て会話するシステムであり，VRS とは手話通訳の資格を持つ第三者が入って話し手が発信する音声や手話を通訳して伝えるシステムである。利用者本人が聴覚障害者であれば VP 本体，設置

料，接続料は無料になる（一部メーカー有料あり）。また，インターネットテレビ会議のソフトウェアの技術も進歩しており，多人数の相手（最大 100 名までは可能）とテレビ会議をしたり画面内にドキュメント等を同時に呈示して文面や画像を見ながら相談できるソフトウェア（Nefsis）が開発され，どのような状況で会話したいかニーズに合わせて選択・調整することができる。この遠隔通信技術を使って PEPNet-West の 8 支部に配置されている

PEPNet サイトコーディネーター同士でテレビ会議等を行ったり（図 10），地域に広く散在している聾学校への支援も容易になった。そのおかげで PEPNet から配分される予算の大部分を占めていた遠方への支援に必要な経費が減り，Web 技術を生かした移行支援の充実化を目指すことが可能になったという。Web 技術を生かした移行支援では，PEPNet（<http://www.pepnet.org/default.asp>）の



図 8 高校生対象の説明資料の表紙



図 9 VP 及び VRS (<http://www.pepnet.org/default.asp>)

トップページにある「Resources」→「Transition Toolbox」で学生、親、教員を対象にしたリソースの紹介、「Online Trainings」→「iTransition」で学生を主な対象にした大学入学に向けた無料オンライントレーニングプログラムの提供をしている。「Transition Toolbox」では、移行支援に関わる様々なイベント情報の発信、利用できるマテリアルの提供、関連するウェブサイトの紹介が非常に充実している。「iTransition」(図11)は、2008年に開発され、14歳から成人までの聴覚障害生徒、成人のほか、教員、大学サービス担当者、トランジション専門家、高校の生徒指導カウンセラー、両親、職業や修学関連相談員などが利用することができる。このトレーニングプログラムには4つのコンテンツが入っている(①Career Interests and Education Choices: It's My Plan!, ②First Year College Success: Be the One!, ③Essential Skills for College Living: It's My Life!, ④eFolio: My Online Portfolio!)。これらは、聴覚障害生徒が自分自身について理解を深め、自身のキャリアのゴールを考え、その将来に向かうための必要なスキルを学ぶことを支援できるように作られている。

以上から、PEPNet-Westは、図12のように、①IEPコーディネーターとの連携で高校への直接的な移行支援を行う、②教育やろうコミュニティ関係の集まりに参加したり自らカンファレンスを開催して啓発活動を行う、③Transition Toolbox や iTransition のように Web コンテンツを充実させて本人、家族及び学校や関係者へ情報提供するといった方略で移行支援に取り組んでいることが明らかになった。



図10 PEPNet - West サイトコーディネーター

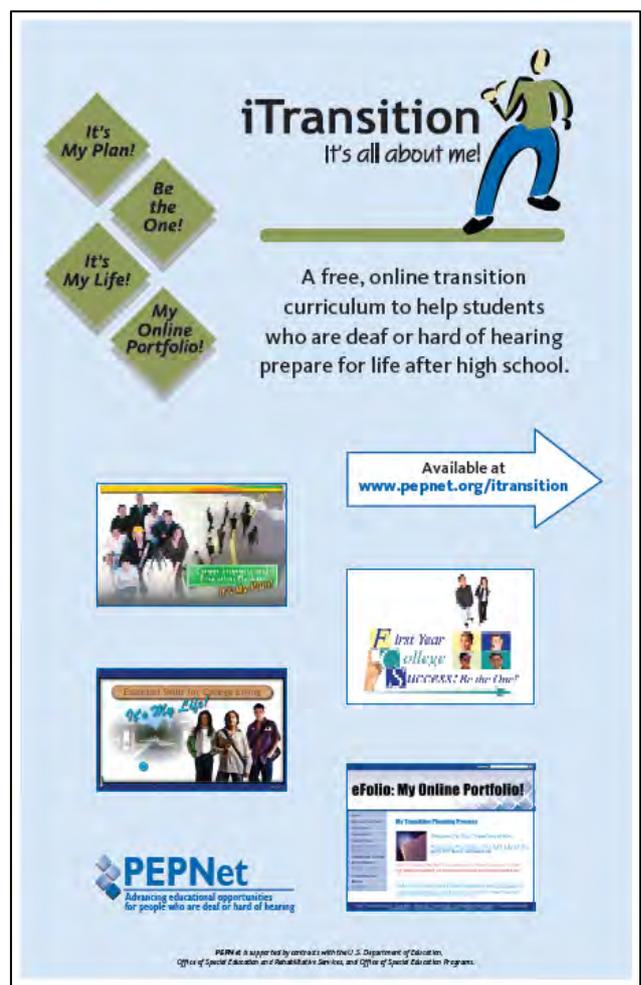


図11 iTransition のポスター